

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ④子どもの発達理解

- ◆ 乳児期・幼児期と比べて児童期は様々な時期区分に分かれることを学びました。一人ひとりの違い、持ち味を理解して、多様な話題に対応し、「加減」がわからない子どもには自己中心性の克服等、子どもの発達に応じた柔軟な支援が必要だと感じました。発達段階を理解し、子どもたち一人ひとりに合った対応、支援をしていきたいです。発達理論を学ぶことで子どもの全体を理解し信頼されるよう、今後も学び続けていきたいと思っています。
- ◆ 児童期は学校生活が中心となる時期なので、学びや友人関係につまずき、学校生活になじめず戸惑う子どももいることを知りました。子どもが自ら主体的に環境になじむためには、その子の今をありのままに受けとめ、理解し、じっくりと話を聞いてあげたり、共に考えてくれる大人や友達の存在が重要です。子どもが希望を持って生活できるように一人ひとりの子どもを尊重し、支えてあげられる支援員でありたいと思いました。
- ◆ 子どもの発達には過程があり、過程によって必要な関わり、遊びが違うこと、さらには遊びを通して様々な能力が発達していくことを知りました。発達には個人差があり、状態にあった支援が必要だということもわかりました。実際に勤務している児童クラブで、子どもの対応に困ることも多々ありますが、講師のお話を聞いてその行動の本当の原因は何なのか、その子の心の状態はどうかを考え、寄り添った対応が大切だということにとっても共感しました。
- ◆ 子どもの発達には時期区分があり、発達の段階や課題があることを学びました。子どもの発達の特徴や過程を理解し、個人差を踏まえたうえで、一人ひとりの心身の状態を把握しながら育成支援を行うことの大切さを知りました。児童期の子どもの社会性は遊びにおいて最も発揮され、身体的能力や心的能力が最も発達するとあります。子どもの発達に応じた柔軟な支援ができるよう継続的な学習の必要性を感じました。
- ◆ 幼児期、児童期等の発達段階を理解し、子どもたち一人ひとりが異なる感性や個性を活かしながら、心身とも健康で安定した生活を送ることができるよう援助が必要である。子どもの遊びを通して、文化が継承され、認識や感情、人格等の諸能力が統合化される。社会性が身につく活動は必要不可欠である。放課後児童クラブが大切な居場所となるよう、家庭との連携、子どもの理解や信頼を深め、居心地が良い場所であるようにしたい。